

大会名称: 第20回日・韓・中ジュニア交流競技会 バasketボール競技

開催場所: 朝鮮大学校体育館(韓国・光州広域市)

試合区分: No. 103 男子 第1戦

コミッショナー:

期 日: 2012(H24)年8月27日(月)

主審:

開始時間: 15:30

副審:

終了時間: 17:00

中国 (通算2勝1敗)	○ 77	10 -1st- 21 22 -2nd- 18 13 -3rd- 23 32 -4th- 10 -OT1- -OT2- -OT3-	● 72	日本 (通算1勝1敗1分)
-----------------------	----------------	---	----------------	-------------------------

第20回日・韓・中ジュニア交流競技会 バasketボール競技は大会最終日。日本は中国と対戦。2mオーバーの選手が4人エントリーしている中国に対し、日本は序盤からスピードを生かした展開に持ち込みリードを保つ。しかしその後、徐々に中国のインサイド陣が威力を発揮し、終盤に逆転される。最後まで反撃のチャンスを試みた日本ではあったが、中国は#14を中心に加点し、ファウルゲームからフリースローを沈め、タイムアップ。最終的に72-77と、日本が逆転負けを喫し、惜敗した。

日本のスタートは#5鈴木、#8高橋、#9川上、#14神里、#15山本。

第1ピリオド、中国は#8の3Pシュートで先制。続けて#14のフリースローで先行を許すが、#15山本のジャンプシュート、#8高橋の連続得点で対抗。守ってもインサイドで中国のセンター陣を相手に、#9川上、#11小原の体を張ったディフェンスが功を奏し、開始3分から5分間、中国を無得点に抑える。この間、日本は速攻から#8高橋のレイアップシュートを決める。さらには、185cmの#5鈴木が2m選手を相手にディフェンス・リバウンドで頑張り、#15山本のターンシュート、#14神里の3Pシュートへとつなぎ、21-10と日本リードで終了。

第2ピリオド、日本は#4河合、#6目黒、#7寺部、#10宮脇、#12仁平でスタート。中国はインサイドにボールを集め、ミスマッチを攻めて得点を重ねる。日本も#4河合、#6目黒のジャンプシュートで一進一退の展開となる。残り4分5秒、日本はタイムアウトをとり、ディフェンスを1-2-2ゾーンに変えるが、中国の勢いは止まらず、シーソーゲームが続く。しかし、日本は残り1秒、#7寺部がバスケットカウントを沈め、39-32と7点リードで前半を終了する。

第3ピリオド、もう一度走ることを確認した日本は、オールコートのマンツーマンプレスディフェンスから、#13白戸の速攻、#5鈴木、#8高橋のスティールからのレイアップシュートで点差を広げる。中国もインサイド陣がオフェンスリバウンドを頑張り粘りを見せるが、残り10秒には、#13白戸がバスケットカウントでチームを盛り上げる。さらにフリースローも確実に決め、62-45、日本はこの試合最大となる17点差をつけて終了。

第4ピリオド、中国は徹底して204cmの#14と#4にボールを集め、インサイドを支配すると、開始4分を0-10として巻き返しを図る。日本は残り6分46秒、62-55の場面でタイムアウトをとるが、中国の勢いは止まらず、#12仁平のドライブ、#4河合のジャンプシュートで、かろうじて持ちこたえる。中国は、ここから#15の3連続得点で、残り2分30秒、68-69で逆転に成功。さらに中国に追加点を与え、残り2分9秒、たまたま日本はタイムアウト。中国は#5のドライブで68-73。日本は#5鈴木スティールからのレイアップシュートへ持ち込み、70-73と3点差に追い上げる。残り1分8秒、ここで中国がタイムアウト。中国はこの試合25得点を挙げた#14のパワープレイで70-75と引き離しに掛かり、残り38秒、日本のタイムアウト。早く攻めることと、ファウルゲームを確認した日本は、残り30秒、#5高橋が放った3Pシュートがリングに嫌われ、中国ボールへ。その後、中国は#5がフリースローを2本沈め、70-77。時間をかけずに攻めたい日本は、必死に外角シュートで反撃を試みる。最後、中国がフリースロー2本決め、すぐに日本#9川上がジャンプシュートを決めるも、タイムアップ。72-77、日本は逆転負けを喫し、1勝1敗1分で今大会を終えた。